４．４　初めての海外出張（文革中の中国）

杉本　良樹

大洋漁業（以後大洋と書く）に入社後１年間は大洋の系列会社になっていた佐世保重工業（以下 SSK）が購入する鋼材などの資材に関する経理業務を任されて船舶事業部の船体課に配属されていたが、技術的な仕事は殆どありませんでした。

２年目は SSK での設計実習、工場実習で鍛えられ３年目には捕鯨母船第二日新丸に乗船を命ぜられて二か月に及ぶ酷暑の船内生活を経験した後ようやく本来の船舶部船体課の仕事に戻ったのです。

その後国内の大小様々な造船所での大小様々な船舶の修理業務を担当させられ船主監督の仕事を身に着けていったのです。最も気を使ったのは甲板部は一等航海士が乗組員の要望を仕様書に書いて提出しその要望をいかに効率よく（安価）に工事を造船所には発注するかです。

私の最初の海外出張は 1973 年の 11 月の上海での中古の小型鮮魚運搬船第 16 佐津丸の中国側への引き渡し業務でした。同行者はこの仕事を大洋に紹介した安宅産業の担当者と大洋の中国室の北川氏と 16 佐津丸の乗組員約 10 名でした。

16 佐津丸の引き渡しは中国の長江の河口近くの有名な大都市上海の長長江の支流黄浦江での試運転に合格し問題なく行われました。

当時 1973 年は中国は文化大革命の真っ盛り、いろいろ面白い光景に出会いました。まず直接上海に飛べず香港と広州を経由し上海に入るのに３日を要しました。その間我々日本人の素姓の調査が入念に行われたものと思います。

まず目を引いたのは広州空港の奇麗さでした。床などたばこの吸い殻一つなくきれいに磨かれていました。

最初は広州見物で動物園で初めてのパンダ見物でした。こういうときは必ず中国側の監視担当者の目が光っているのです。今思うとどこへ行っても動物園とパンダ見物が中国の公園で多かった気がします。

広州の公園で文革の最中にほのぼのとした乙女心に出会ったのは、どこへ行っても人民服の男女の姿に中国人の悲しみを感じていたところだったので、特に私の心を癒してくれました。それは私がカメラを持っているのを見た少女が小さな荷物を持ってすぐ近くのトイレに入ったのです。出てきた少女は髪はおさげに結い白の長袖と黒っぽいチョッキに桃色と白っぽい花柄のスカート姿でした。そして私のカメラを指さすではありませんか。私は急いでカメラを少女に向けてシャッターを切りました。

それが添付の写真です。これを中国当局の演出かもという下衆の勘繰りは止めておきましょう。持って行ったのは馬鹿チョンカメラで。残念ながら写真は少女に渡せませんでした。

無事船の引き渡しを終えた後驚いたのは中国側の思いもよらぬ歓迎ぶりでした。文革の成功を外国人に知ってもらおうということでしょう。まずは上海動物園公園での大熊猫 Giant Panda の見物に始まり、2 泊 3 日の南京観光旅行に招待されました。往路はプロペラ機の空便、帰路は列車便でした。

南京到着後は南京市内の公園など観光名所を巡り、次は文革中の中国が誇る自力更生を文字通り実現した長江（揚子江）大橋の見物です。この橋は二重になっていて上部は人と自動車道路で下部は鉄道橋になっておりこの橋の完成により北京と上海が直結されました。

一方この橋は自殺者の多いのでも有名です。文革の息苦しさに耐えられず欄干もないこの橋から身を投げる人が年間百数十人（？）に上る自殺の名所になった事実もあります。

二日目は南京郊外の明帝陵の見学です。写真によると相当長い参道の両側にはゾウの立像、座像、ヒトコブラクダの立像、フタコブラクダの座像が並んでいる．これは明と中東の諸国との交流が盛んであったことを示しています。陵墓のすぐ前までは近づけたが内部には入れず残念でした。

ここで文革中の興味深い経験談を一つ書きましょう。帰路は鉄道で上海まで半日ぐらいの行程だったので昼食が提供されました。其の食べ残しがきちんとした紙袋に入れられて上海のホテルの私の部屋に届けられ

ていたのです。さてこれはどういうことを意味しているのでしょうか。これは私の一挙手一投足がすべて中国側の監視の対象だったことの証拠ではないでしょうか.

文革中の中国の実態がよくわかります。長江の橋からの投身自殺者が多いのも肯けますね。

写真と説明

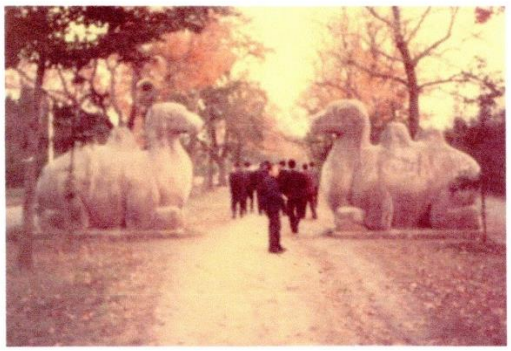
広州の公園のトイレで着替えてポーズをとる少女

広州の街の一景、荷物は３輪車、人は２輪車

16佐津丸の引き渡しを中国側の責任者と決める

１６佐渡丸の乗組員と引渡式に参列

明帝陵墓への参道に並ぶとフタコブラクダの像



長く広い明帝陵への参道

上海の動物公園のジャイアント・パンダ大熊猫の案内板

明帝陵を背に立つ日本人はだれでしょう